



『しまの宝』

第9号 R2.8.4発行

文責：校長 日高 洋子

1 学期終業式でした

新型コロナウイルス感染症で、4月は大変なスタートでした。しま留学児童生徒が全員揃って学習ができたのは6月後半で、学校が活気づきました。終業式では、児童生徒にこんな話をしました。

【校長あいさつ】

今年、全国の小・中学生にとってさびしい新学期のスタートでした。小・中学生だけでなく高校生や大学生にとっても同じです。異例とも言える臨時休校が長く続き、本校では、入学式も、全員揃っての始業式もできず、やっと揃ったのが6月22日でした。そのことを考えると終業式をこうしてできることを嬉しく思います。

久賀小・中学校は、他の公立小中学校と違い、全国から志を持って集まった児童生徒が多く在籍する学校です。今年は、11名の島外からの児童生徒を中学生の大櫛優樹君が迎える形となりました。11名一人ひとりが目的を持ってここに集まっています。また、優樹さんはたった一人の島の中学生として、しま留学生を迎える意味があったと思います。

さて、皆さん、1学期は、それぞれの目的をもとにどんな目標を立てましたか。そして、その目標は達成できたでしょうか。

学習面・生活面と2つに分けて立てた人は、しっかり実践できたでしょうか。目標は飾りではありません。自分自身の成長のための道案内の地図です。目標が達成できた人は次のステップへ、足りなかった人はどうして足りなかったかを反省し、もう一度目標の見直しが必要です。夏休みはそんな目標を見つめ直す良い機会です。

そこで、夏休みにやってほしいことが2つあります。

一つ目は、本を読んでほしいということです。今から400年前に中国で書かれた書物に「菜根

譚（さいこんたん）」というものがあり、その中では、「人間が強く生きていくには人柄を磨くことが大切だ」ということが書かれています。例えば、「人はそれぞれ生まれ育った環境が違うため、自分の経験や感覚だけに頼ると、どうしても相手を理解できない場合がある。だから歴史上の人物について学んだり、主人公の気持ちになって物語を読んだりしていろんな考え方を取り入れて理解する力を磨くことが大事だ」ということなどです。私は、このことが皆さんにとって大切なことだと思っています。

皆さんは、日本全国から集まっています。言うならば、育った環境が違う人たちの集まりです。ですから、自分の考えと友達の考えが違っていても、そのことを受け入れ、自分の考えをさらに発展させる力を伸ばし、自分を磨くためにもぜひ、「読書」をしてほしいと思っています。

二つ目は体力をつけてほしい、ということですよ。2学期はたくさんの行事があり、勉強も大変になります。勉強をするためにも体力が必要なのです。病気になるための体力、勉強に集中できる体力、そして、暑い夏や寒い冬を乗り切るための体力。皆さんにはいろいろな体力をつけて、充実した2学期を過ごしてほしいと思っています。体力をつけるためには、運動することだけでなく、睡眠をとったり、ご飯をたくさんバランス良く食べたりすることも必要です。ぜひ、この夏休みはいろいろな体力について、意識して過ごしてみましよう。

この2つは決して難しいことではありません。強い気持ちがあれば、「よし、やってみよう」と一歩前に進めるものです。ぜひ、「敢為の精神」のもと実践してほしいと思います。

今年は例年と違って、夏休みは短いし、しま留学生は久賀に残る人もいます。いつもとは違う夏を、一人ひとりが成長する夏にしてほしいと願っています。だんだんと真っ黒になっていく皆さんを楽しみにしています。(以上です)

しま留学の志を忘れることなく、確実に成長を遂げている児童生徒は、地域の方に支えられて育っています。一人ひとり、伸びしろが驚くほどある子ども達です。2学期は9月に合同運動会が予定されていますし、10月には奥浦小学校、崎山小学校と交流学习も実施予定です。中学生も崎山中学校との交流を計画しています。

久賀では経験できないことはたくさんありますので、コロナウイルス防止対策を十分に行い、子ども達の学習体験をしっかりと充実させたいと思います。

8月の登校日



今年の夏休みは、かなり短くなっていますが8月9日は、平和祈念集会を実施し、登校日とします。

この日は、1945年に原子爆弾が投下され、たくさんの方が犠牲になった日です。長崎県の多くの小中学校では、この日を忘れずに、犠牲になった方に黙祷を捧げ、世界の平和を願う日として、集会を開きます。子ども達は、事前に平和について学習しています。静かに、そして優しい気持ちで、集会を開きたいと思っています。

日曜日の登校となりますので、8月10日が代休になります。

ジオクルーズ久賀島

7月22日(水)梅雨の合間の良い天気にも恵まれ、延期されていたジオクルーズに全校児童生徒で出かけました。久賀には特徴的な地形や地層が豊富に見られる場所があり、海上タクシーに乗って海側からと、折紙展望台から、地形の観察を行いました。故郷の自然をジオパークの視点から学習する機会がめったにないので、子ども達が久賀の自然を身近に感じ、大切にしようとするきっかけになってくれたと思います。



↑中学生は折紙展望台から回るコースで観察



↑小学生は海から回るコースで海岸を観察

魚釣りを満喫です

7月23日(木)海の日、毎年恒例の「海の会」を開催しました。あいにくの雨模様でしたが、子ども達の元気な声で、午前中の雨が魚釣りの時に限って落ちてきませんでした。初めて魚釣りを経験した子ども達は、はじめこそ、釣り竿の持ち方から、教えてもらっていましたが、だんだん時間とともに慣れてきて、どんどん魚を釣りあげていました。



野園港の防波堤から、サビキの仕掛けでアジやアラカブを狙いました。児童生徒と職員で、大小様々な大きさの魚を釣りあげ、お昼にはその魚を「さしみ」や「みそ汁」にしてもらい、「うわ！うまい」と叫びながら、おいしくいただきました。

海の会には、たくさんの方に差し入れをいただきました。食べきれなかったものは、それぞれ持ち帰りました。



中1の彩さんと、小4の南那美さんは大きいアラカブを釣りあげました！思いのほか大きい魚に満面の笑みです。

← スイカ割りに興じている優樹さんですが、魚をおろす腕はプロ並みです。

お母さんと2人で、釣り上げたほとんどの魚を「じょり」しました。そしてあっという間にみそ汁や刺身になりました。

いつもより、会を縮小して実施しましたが、差し入れの多さに驚きました。あらためまして、ご厚情に感謝いたします。